

高すぎる東葉高速線の運賃問題

公約をあきらめる市長にたいし、運賃値下げを粘り強く要望

普通運賃で京成線の2倍以上、通学定期は京成線の約3.3倍、2022年に大幅な値下げを実施した北総線の約4.7倍と高額である東葉高速線の運賃。

※1キロメートルあたりの単価で比較

議会では、八千代市が船橋市とともに東葉高速鉄道へ依頼した「通学定期割引率拡大試算結果」について、八千代市としての見解を確認したところ、市の答弁は「会社の経営に影響を与えることについて確認した」という理由で「会社の経営安定化を最優先すべきと考えている」と市長の公約をあきらめているようなものでした。さらに“運賃全体の値下げは取り組んでいない”という趣旨の発言もあり、高すぎる東葉高速線の運賃値下げを願う市民に背くような回答。

先すべきと考えている」と市長の公約をあきらめているようなものでした。さらに“運賃全体の値下げは取り組んでいない”という趣旨の発言もあり、高すぎる東葉高速線の運賃値下げを願う市民に背くような回答。

東葉高速線は2014年に通学定期運賃の値下げを実施しています。当時は値下げによる影響は3年程度で解消したと言われていました。

そして現在、2024年度決算の純利益は、33億6千万円という結果に繋がっています。

このことから市にたいしては、通学定期割引率拡大試算結果について、もっと長期的な試算が必要であること、そして未来を見据えて北総線のように戦略的な運賃値下げを急ぐべきと強く要望しました。

通学定期割引率拡大試算結果

東葉高速鉄道株式会社が船橋市と八千代市から依頼を受けて実施した試算結果の内容

①輸送人員 2024年度実績：約26千人/日		②運輸収入 2024年度実績：約12億円/年	
通学定期割引率	影響人員(1日あたり)	通学定期割引率	影響額(年間)
ケース1：65%→75%	約+1.9千人	ケース1：65%→75%	約△2.6億円
ケース2：65%→85%	約+3.4千人	ケース2：65%→85%	約△6.1億円

※前提条件：●割引率は、現行の65%から、75%と85%に拡大した2パターンで試算●需要変動は、他の交通手段(自転車等)や他の鉄道路線から東葉高速線への需要転換を考慮し、2024年度実績を基に、輸送人員及び運輸収入への影響を試算

「公共施設がボロボロ」管理は??

公共施設の管理側と施設側の意見交換と連携を要望

2020年にも議会で指摘している公共施設の管理、市は「2019年から77施設で開始した包括施設管理業務の委託によって、施設の長寿命化につなげていきたい」と答えています。現在市は、93施設に増加した包括施設管理業務によって、市は「建築物の延命化や予防保全」、「質の向上、事務量の低減などを担っている」と回答。

しかし避難所や投票所にもなる学校や公民館、庁舎等の外壁はボロボロのまま、学校では校長先生がプールの清掃や除草作業を行い、学校内の道路はデ

コボコのまま、校内の雑草について市民から苦情が出されるなど、施設側の努力で対応している実態を市に指摘、さらに包括施設管理業務として、施設側と連携し、より良いものにするように要望しました。



投票所や避難所などとして市民にも利用される学校内の道路はデコボコで雨天時には大きな水溜まりも。
※八千代市立大和田西小学校(2025年7月17日撮影)

緑が丘地域の中学校新設と西高の存続を!

八千代市の未来のために千葉県知事へ求めるべき

街づくり計画から安易に中学校の設置を無くしたことで発生した問題。

市は、2025年10月に策定された県のプログラムを受けて「八千代西高の校舎を中学校の校舎として活用する案が優先される」と答えています。

しかし、地域からは、西高が廃校されること、東高と統合されることに反対の声が多くあがっていることは、県の事前調査でも明らかになっています。

このような実態から「八千代市は西校の廃校について、県に対して反対の声を上げるべきで、なおかつ中学校については、新しい建物によって新設すべき」と求めました。市の答弁は「高校は県の管轄である、中学校は西高の活用で県と調整を進める」というもの。

開校から約45年経過、周辺地域の開発によって地域コミュニティの一部になりつつある県立八千代西高等学校(2025年8月29日撮影)

市にたいしては、「八千代市も子どもたちの未来のために西高の存続を知事に求めるべき」、「東葉高速線の利用者拡大のため、将来の利用者確保のためにも緑が丘地域には中学校も高校も必要」だと訴えました。



中央図書館の駐車場問題と公共交通

駐車場の2時間無料化と公共施設を循環するコミュニティバスを!

ほんの少し利用ただけで300円かかっていた駐車料金が2019年に1時間まで無料になった県立八千代広域公園駐車場。

しかし中央図書館や市民ギャラリーで開催されるイベントは2時間程度のものが多く、市民からも施設側からも「せめて2時間無料」の声があがっています。

さらに、近隣には市民会館、体育館、野球場、総合グラウンド、総合運動公園など、大規模な公共施設が多く集まっているのにも関わらず、公共交通によるアクセスが難しいのです。

八千代市は2時間無料化の要望にたいして「受益者負担」という理由で「考えていない」と答えています。近隣駐車場の実態からも、「誰がどの施設の受

益者負担をするべきなのかさえ、分からない状態」と指摘したうえで、せめて「ぐるっと号」のようなコミュニティバスが運行するまでは、駐車場料金を2時間無料にするべきと強く要望しました。



八千代市中央図書館と市民ギャラリー(2025年11月17日撮影)隣接する県立八千代広域公園駐車場は入庫から1時間で使用料がかかります。

2025年12月議会の議決結果および議員別賛否一覧表はコチラ

(令和7年第4回定例会)

※八千代市ホームページ内リンク

<https://www.city.yachiyo.lg.jp/uploaded/attachment/43916.pdf>

